

IV 平成25年度の実績

1 平成25年度事業の実績一覧

重 点	事業番号	平成25年度事業一覧	所管	掲載ページ
(1) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進 ア 多様な学習活動の支援 イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援	1	県立学校開放事業	《企画》	P. 52
	2	あおもり県民カレッジ学習支援総合事業	《指定管理》	
	3	元気青森人を創造するeラーニング推進事業	《社セ》	P. 54
	4	学習情報の収集・提供事業	《社セ》	
	5	青森県視聴覚ライブラリー運営事業	《社セ》	P. 55
	6	ボランティア活動支援機関連絡会議	《社セ》	P. 56
	7	アウトリーチサービス推進事業	《図書》	P. 57
	8	近代文学館 特別展開催	《図書》	
	9	近代文学館 企画展開催（収蔵資料展）	《図書》	P. 58
(2) 次代を担う青少年の育成 ア 青少年の体験活動の充実 イ 青少年のキャリア形成の支援 ウ 子どもの読書活動の充実	10	子どもの読書活動推進事業	《企画》	P. 60
	11	地域の教育力によるたくましい高校生育成事業（共通研修）	《地域》	P. 62
	12	いじめ根絶キャンペーン推進事業	《地域》	P. 63
	13	障害者青年学級開設	《地域》	P. 64
	14	高校生スキルアッププログラム推進事業	《社セ》	P. 65
	15	高大連携キャリアサポート推進事業	《社セ》	P. 66
	16	未来の青森県を担う若人育成講座	《社セ》	P. 67
	17	子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業	《図書》	P. 68
	18	在学少年宿泊指導者研修	《梵珠》	
	19	梵珠少年自然の家主催事業（親子のつどい、子どものつどい）	《梵珠》	P. 69
	20	自然体験活動支援事業	《梵珠》	P. 70
	21	在学少年宿泊指導者研修	《種差》	
	22	種差少年自然の家主催事業（自然と遊ぼう、こどもの祭典）	《種差》	P. 71
23	自然体験活動支援事業	《種差》	P. 72	
(3) 地域を支える人材の育成 ア 地域活動の実践者の育成 イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成	24	学びと活動による地域コミュニティ活性化事業（地域で考え行動する公民館機能活性化事業）	《企画》	P. 73
	25	学びと活動による地域コミュニティ活性化事業（学校発、地域とのつながり形成事業）	《地域》	P. 75
	26	地域のつながり創造人育成事業【廃止】	《社セ》	P. 76
	27	パワフルAOMORI!創造塾	《社セ》	P. 77
	28	学校と地域の協働実践セミナー	《社セ》	P. 78

(4) 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上 ア 学校と地域の協働による教育活動の充実 イ 家庭教育支援の充実 ウ 地域全体で子どもを育てるための仕組みづくり	29	地域みんなで作る子どもの安全・安心実践事業【廃止】	《企画》	P. 80
	30	地域の力で夢を育む教育支援プラットフォーム事業【廃止】	《企画》	
	31	地域の教育力による学校支援活動推進事業	《地域》	P. 82
	32	放課後子ども教室推進事業	《地域》	P. 83
	33	障害者家庭教育学級開設	《地域》	P. 84
	34	子どものキャリアを育む家庭のチカラ推進事業【廃止】	《地域》	P. 86
	35	家庭教育支援推進事業	《地域》	
	36	絆でつながる家庭教育支援セミナー	《社セ》	P. 87
	37	家庭教育支援コンテンツ制作事業	《社セ》	P. 89
	38	家庭教育相談事業	《社セ》	P. 90
(5) 社会教育推進のための基盤整備 ア 社会教育推進体制の充実 イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進 ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上 エ 社会教育関係団体等の活動の支援	39	生涯学習推進基盤整備事業	《企画》	P. 91
	40	生涯学習・社会教育総合調査研究事業	《企画》	
	41	青森県社会教育委員の運営	《企画》	P. 92
	42	社会教育学習活動推進調査（「青森県社会教育行政」の作成）	《企画》	
	43	社会教育主事等一般研修	《企画》	P. 93
	44	生涯学習専門講座派遣事業	《企画》	
	45	社会教育主事派遣事業	《企画》	
	46	社会教育主事有資格者育成派遣事業	《企画》	P. 94
	47	在学青少年育成費補助事業	《企画》	
	48	青森県連合青年団活動費補助事業	《地域》	
	49	青森県地域婦人団体連合会補助事業	《地域》	P. 95
	50	生涯学習・社会教育関係職員研修講座	《社セ》	
	51	県立図書館資料整備	《図書》	P. 97
	52	市町村立図書館等職員研修事業	《図書》	

【所管凡例】

《企画》生涯学習課企画振興グループ	《地域》生涯学習課地域連携推進グループ	《社セ》県総合社会教育センター
《図書》県立図書館	《梵珠》県立梵珠少年自然の家	《種差》県立種差少年自然の家
《事務》各教育事務所	《指定管理》指定管理者事業	

2 平成 25 年度事業の実績

(1) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

県民一人一人の主体的な学習活動と社会参加活動の支援の充実に努める。

- ア 多様な学習活動の支援
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

生涯学習課

県立学校開放事業

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習の推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

[事業内容及び結果]

公開講座開設事業

学校名	期間	日数	内容	受講者数
県立盲学校	8月	2日	点字入門と歩行援助	34名
八戸盲学校	6～7月	5日	点字学習会	2名
青森聾学校	6～8月	7日	手話講座	23名
八戸聾学校	6～9月	10日	手話講座	18名
青森若葉養護学校	6～7月	5日	油絵をはじめてみよう ～楽しむ授業体験～	5名

[成果と課題]

県立学校が有する、より専門性が高い学校機能の開放を目指し、特別支援学校のための講座開設を実施した。受講者のアンケートによれば、いずれの講座も満足度は高く、県民の多様な学習ニーズに対応している。

東青及び三八地区のみの開催となっているため、より多くの県民の学習ニーズに応えられるよう、未開催地区での講座開設が課題である。

総合社会教育センター

あおもり県民カレッジ学習支援総合事業

[事業目的及び概要]

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) あおもり県民カレッジの運営全般

ア あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化

・連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼。

※連携機関数：603 機関（体験施設 143 か所を含む）

・訪問による新規連携機関勧誘活動を実施。

・講座開催における協力などを通して、関係強化を推進。

イ 生涯学習支援のネットワーク構築

ウ 事務局の運営（県民カレッジ学生への連絡、連携機関との連絡調整、運営に関わる事務）

※あおもり県民カレッジ学生数 17,011 名（新規 1,211 名）

〔教養学習コース 15,064 名（新規 533 名）〕

〔子どもカレッジコース 1,947 名（新規 678 名）〕〔うちジュニアコース 1,229 名（新規 676 名）〕

(2) 普及啓発事業

ア 学生募集（ポスターやパンフレットの作成）

・あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集

・小学校、老人ホーム、企業、団体への訪問

・連携機関等イベントでの、県民カレッジブース出展による募集

イ 生涯学習フェア 2013 の開催 (10/5 (土))

- ・オープニング 元気な歌声 自主事業講座参加者(小学生)
 - ・あおもり県民カレッジ認定証交付式
 - ・記念発表会「元気！高校生 めざせトップランナー」
研究発表 農業高校、工業高校、水産高校、商業高校
 - ・記念演武「関口流抜刀術」
講師 早川尚彦 松平和泉守西尾藩十二代宗家 範士八段 師範
 - ・記念講演「つながりを自分力にして！一歩前へ！！」
講師 井門宗之 ラジオパーソナリティ
 - ・記念ライブ「小山内創祐こもれびライブ」
講師 小山内創祐 シンガーソングライター
 - ・教育支援プラットフォーム展示、未来の青森県を担う若人育成講座実習
 - ・高校生による展示、販売、体験
 - ・あおもり県民カレッジ連携機関等による講座、実習、体験、展示、センター事業紹介等
- ※入場者数 1,500名

ウ 生涯学習HPの作成

- ・生涯学習情報サイト<alinfo.jp>作成及び随時更新
- ・連携機関の講座情報の更新
- ・地域キャンパス講座の情報ページの運用
- ・「講座アーカイブ」を開設し、講座の様子をYouTubeに公開している

※配信数 19コンテンツ

(3) 学習情報提供・学習相談事業

ア 学習機会情報の収集及び提供

- ・連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼
- ・連携機関等訪問による講座情報の調査収集

イ 活動機会情報の収集及び提供

- ・ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供

ウ 学習相談の実施

- ・窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付

※相談数 263件

エ 県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」の発行

- ・あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」発行(年12回)

(4) 学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内6地区)開催

※開催数 東青8回、西北8回、中南9回、上北7回、下北6回、三八7回

※受講者数 のべ2,488名

イ ボランティア活用支援

- ・ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催

※講師登録数 64名

※講座数 72講座 のべ1,335名

ウ 専門講座の開催

(5) 評価サービス及び学習成果の活用支援事業

ア 認定証・奨励証の交付

※認定証交付数

教養学習コース 386名 子どもカレッジコース 80名

イ ボランティア証明書の発行

[成果と課題]

学生数は依然として自然減や少子高齢化等の影響もあり、緩やかな減少傾向がみられる。反面、指定管理者による自主講座については受講者数を大きく伸ばしていることから、様々な学習要求に十分応えたこれら講座の企画力を、当事業全般へと展開、浸透を図る必要がある。

元気青森人を創造する e ラーニング推進事業

[事業目的及び概要]

自己の生き方や働き方について考えたり人生設計したりするための学習を、県民の誰もがいつでもどこでも手軽にできることを目的として、インターネットによる講座の配信を行う事業である。

[事業内容及び結果]

インターネットによる学習教材の配信(e ラーニング)

(1) 元気青森人 PowerUp コンテンツ	計 123 本	(アクセス件数 : 9,876 件)
ア 公開講座	6 本	
イ ワンポイントアドバイス	12 本	
ウ はたらく心	94 本	
エ 関係機関リンク	11 件	
(2) あおもり学インターネット講座	計 44 本	(アクセス件数 : 8,201 件)
ア あおもりの自然	10 本	
イ 我がふるさとあおもり	10 本	
ウ あおもり学特別講座	23 本	
エ 青森県の先人	1 本	
(3) あおもり子育てネット	計 61 本	(アクセス件数 : 58,702 件)
ア 家庭教育支援コンテンツ	20 本	
イ 家庭教育支援啓発教材	4 本	
ウ センター企画テレビ放送番組	20 本	
エ 子育てワンポイントアドバイス	10 本	
オ 公開講座	7 本	

[成果と課題]

「あおもり子育てネット」における家庭教育支援コンテンツの配信数を増やしたことで、その他の e ラーニングコンテンツのアクセス件数も増加している。今後も利用率向上のため、コンテンツの充実を図る。

学習情報の収集・提供事業

[事業目的及び概要]

県民の学習活動を支援することを目的として、各種学習情報を収集し、インターネットにより県民に提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	414 件
	団体・サークル情報	1,087 件
	指導者人材情報	1,411 件
	視聴覚教材情報	19,847 件
	計	22,759 件
・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	3,231 回
	団体・サークル情報	1,028 回
	指導者人材情報	1,588 回
	視聴覚教材情報	1,269 回
	全情報	615 回
	計	7,731 回
・ありすネット検索回数	学習機会情報	1,286 回
	団体・サークル情報	660 回
	指導者人材情報	978 回
	視聴覚教材情報	1,627 回
	全情報	371 回
計	4,922 回	

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器等の維持管理を行った。

〔成果と課題〕

学習機会情報は、前年度の登録件数からさらに減少し、これを反映するようにアクセス回数、検索回数も減少した。原因として利用者によるWeb経由での情報登録が普及していないことが考えられる。情報登録に当たって、利用者側の情報登録方法を簡易にするなど、システムを改善していく必要がある。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業

〔事業目的及び概要〕

総合社会教育センターに、16mm フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を設置し、運営する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 教育メディア利用セミナー（青森県視聴覚・情報教育研究大会）の開催

期 日	9/12(木)		
会 場	県総合社会教育センター		
対 象	社会教育関係者、学校教育関係者、各種教育団体・サークル関係者、地域視聴覚ライブラリー関係職員		
参加者	120 名		
内 容	<p>開会式</p> <p>主催者挨拶 青森県視聴覚・情報教育研究大会実行委員長 (青森市教育委員会 教育長) 月永 良彦</p> <p>祝辞 青森県教育委員会 教育長 橋本 都</p> <p>来賓・主催者紹介</p> <p>平成 25 年度視聴覚教育功労者紹介</p> <hr/> <p>記念講演演題「タブレット端末は、紙とどこが異なるのか」</p> <p>講師 東京工業大学名誉教授 白鷗大学理事・教育学部長教授 赤堀 侃司</p> <p>小学校研究部会</p> <p>公開授業 第 3 学年理科「実ができること」</p> <p>授業者 青森市立戸山西小学校 教諭 森 尚仁</p> <p>実践発表「無線LANの効果的な活用と対応について」</p> <p>発表者 青森市立横内小学校 教諭 中原 亨</p> <p>研究協議「視聴覚・情報機器の特性を生かした、効果的な学習の在り方について」 「放送教材やデジタルコンテンツを活用し、児童の感性を高める学習の在り方」について</p> <p>司会者 青森市立浪打小学校 教諭 柴田 幸一</p> <p>助言者 東青教育事務所 指導主事 田村 琢哉</p> <hr/> <p>中学校研究部会</p> <p>発表①「既存の視聴覚機器を手軽に有効活用する実践報告」</p> <p>発表者 青森市立甲田中学校 教諭 長谷川一生</p> <p>発表②「ICT活用の実践報告～東中研視聴覚部会の取り組み～」</p> <p>発表者 平内町立小湊中学校 教諭 木村 慧</p> <p>司会者 外ヶ浜町立蟹田中学校教頭逢坂清悦</p> <p>助言者 青森市教育研修センター 指導主事 今別 幸司</p> <p>記 録 青森市立新城中学校 教諭 小林 正之</p> <hr/> <p>高等学校研究部会・社会教育研究部会（合同開催）</p> <p>事例発表「Webデータベースについて」</p> <p>発表者 青森県総合社会教育センター 指導主事 荒関 英樹</p> <p>研究発表「視聴覚ライブラリー資産の新たな活用法について」</p> <p>発表者 青森県総合社会教育センター 主査 木村奈々子</p> <hr/> <p>閉会式</p>		

(4) 青森県視聴覚ライブラリー連絡協議会への加入

(5) 視聴覚教材の購入 18 本

【成果と課題】

教育メディア利用セミナーは、青森県視聴覚・情報教育研究大会における社会教育研究部会として、高等学校研究部会と合同開催の形で開催した。記念講演では、タブレット端末・PC・紙をそれぞれ利用した学習効果について、赤堀教授からわかりやすく御講演いただき、参加者から大変好評を得た。

各研究部会においては、平成 25 年度をもって高等学校教育研究会視聴覚部会が解散となったこともあり、社会教育研究部会からの事例発表・研究発表となった。今後は社会教育研究部会において高等学校からの参加者を受け入れることとなる。メディア教育に関する学習機会は数が少なくなっており、今後も本セミナーを継続していく必要がある。

ボランティア活動支援機関連絡会議

【事業目的及び概要】

ボランティア活動支援機関担当者の専門性向上のための研修と情報交換を通して、福祉・教育各分野を越えた連携支援体制を構築することにより、本県のボランティア活動の推進及び充実を図ることを目的として、ボランティア活動支援機関担当者が一堂に会する連絡会議を開催する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 対象：ボランティア活動支援担当者（県内ボランティア活動支援機関、市町村教育委員会等）
- (2) 内容：スキルアップ研修会（講演・演習）、情報交流会
- (3) 参加者総数 51 名

地区	開催日	場 所	内 容
下北	11/20 (水)	むつ来さ まい館	ア スキルアップ研修 演題『楽しいボランティア活動』 講師 ねぶたの家ワ・ラッセ施設事業部長 工藤 正之 イ 連絡会議 (ア)各機関での取り組み (イ)今後の活動に向けて テーマ『ボランティア活動実践者がやりがいをもってボラン ティア活動に取り組むために、支援機関は何をこころ がければよいのか。』
中南	11/28 (木)	青森県 武道館	ア スキルアップ研修会 演題『やりがいのあるボランティアを支援するために』 講師 八戸国際交流協会交流促進部会長 中村 智子 イ 連絡会議 (ア)各機関での取り組み (イ)今後の活動に向けて テーマ『ボランティア活動実践者がやりがいをもってボラン ティア活動に取り組むために、支援機関は何をこころ がければよいのか。』
上北	12/4 (水)	三沢市 国際交 流教育 センター	ア スキルアップ研修会 演題『地域を元気にするネットワークを作ろう！ ～やりがいのあるボランティアを支援するために』 講師 NPO 法人子どもネットワークすてっぷ 事務局長 野呂 美奈子 イ 連絡会議 (ア) 各機関での取り組み (イ) 今後の活動に向けて テーマ『ボランティア活動実践者がやりがいをもってボラン ティア活動に取り組むために、支援機関は何をこころ がければよいのか。』

【成果と課題】

ボランティア活動の推進及び充実を図るため、事業の一環として、事例発表、研修、及び連絡会議を定期的で開催し、支援機関担当者のスキルアップとネットワーク構築に取り組むことができた。

各地区のネットワークの形成状況を随時確認（自主的な連絡会議の開催状況など）等をしてきたも

の、依然として、関係者からは、質の高い研修を実施してほしい、民間レベルでの福祉と教育の分野、或いは首長部局と教育部局の効果的な連携方策を探りたい等の声が寄せられている。

県立図書館

アウトリーチサービス推進事業

〔事業目的及び概要〕

重度心身障害者や要介護高齢者等、来館による図書館利用が困難な利用者に対して、自宅等に居ながらも図書館資料を利用できる環境をつくることを目的として、宅配による図書の貸出を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- 登録者数：56名（うち新規登録者数2名）
- 貸出：件数228件 冊数838冊

〔成果と課題〕

図書館は、障害者や高齢者に対するサービスの充実が求められており、当事業の継続的な利用者も少なくないことから、十分な成果を挙げている。

デジタル図書（障害者用音声資料）の貸出サービスなど、当館における他の障害者向けサービスとの連携が課題である。

近代文学館 特別展開催

〔事業目的及び概要〕

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催するとともに、内容をよりわかりやすくかつ理解を深めることを目的として、青森県の近代文学について著名な講師による講演会、シンポジウム等や県内有識者による文学講座などを開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 特別展「寺山修司没後30年」

- 期間：7/13(土)～9/8(日)
- 場所：近代文学館企画展示室
- 内容：寺山修司(1935－1983 弘前市)は、中学校時代からガリ版刷りの文芸誌「白鳥」を発行するなど、その早熟な才能を開花させた。県立青森高等学校在学中には全国の高校生の俳句雑誌「牧羊神」を発行している。早稲田大学在学中に「チェホフ祭」で短歌研究新人賞を受賞、1964(昭和39)年には放送詩劇「山姥」でイタリア賞のグランプリに輝いた。寺山の率いる演劇実験室「天井桟敷」は1971(昭和46)年ベオグラード国際演劇祭において「邪宗門」でグランプリを受賞。以後、多彩なジャンルで数多くの作品を残した。

没後30年に当たり、寺山修司とふるさと青森の関わりを中心に、寺山修司の文学活動と業績を紹介した。

- 展示資料：305点(原稿19点、遺品・書画等39点、図書・雑誌207点、書簡11点、その他29点)
- 来場者数：5,046名

(2) 特別展「寺山修司没後30年」第1回文学講座

- 期間：7/28(日)
- 場所：県総合社会教育センター
- 内容：講演 「寺山修司と太宰治——二人のしゅうじ」 講師 清水 義和(国際寺山修司学会会長)
対談 「寺山修司と過ごした日々」 出演 九條 今日子(テラヤマワールド代表)
佐々木 英明(寺山修司記念館館長)

- 来場者数：118名

(3) 特別展「寺山修司没後30年」第2回文学講座

- 期間：8/18(日)
- 場所：県立図書館集会室
- 内容：講演 「寺山修司と暖鳥」 講師 新谷 ひろし(元「暖鳥」主宰)
講演 「寺山修司のことば—内部から成長を始めるときが来た—」
講師 久慈 きみ代(青森大学教授)

- 来場者数：73名

(4) 日曜講座

- 日時：9/1(日)
- 場所：県立図書館研修室
- 内容：講演「青森県近代文学館の資料にみる寺山修司」 飛内 文代（青森県近代文学館副参事）
- 来場者数：54名

(5) 「寺山修司没後 30 年パネル展」

- 期間：7/13～11/27
- 会場：青森高校・青森東高校・六戸高校・八戸中央高校・弘前工業高校・黒石高校・八戸東高校・青森県高等学校総合文化祭・横浜町公民館・弘前学院聖愛高校・鶴田高校・県総合学校教育センター
- 内容：特別展の内容を 12 枚のパネルに再構成し、各会場で展示した。
- 来場者数：6,902名

【成果と課題】

弘前市立郷土文学館・三沢市寺山修司記念館・日本現代詩歌文学館等との連携・協力を得て、初展示資料を含め、貴重な原稿・遺品等を展示することができた。生誕地弘前、幼少期を過ごした三沢市、少年期を過ごした青森市、作品の舞台となった恐山など、「青森が私を作った」と書いた寺山修司と県内各地とのつながりを中心にその足跡を紹介し、没後 30 年にあたって各地で開催された展覧会の中でも充実したものと県外からも注目された。

第 1 回文学講座では、清水義和氏が寺山修司と太宰治のつながりについて示唆に富む講演を行った。次いで、夫人・劇団員として直接寺山修司を知る二人が、人間寺山修司の貴重なエピソードを語り、好評であった。

第 2 回文学講座では、高校時代の寺山を知る新谷ひろし氏と研究者久慈きみ代氏が、それぞれの視点から寺山についての講義を行い、理解を深めるものとなった。

閉会後も、関係機関や学校と連携してパネル展を実施し、来館の困難な県民からも好評を得た。

今回の成果を今後の調査・研究に生かし、資料の充実につなげていくとともに、より魅力的なイベントを企画し、案内や周知の方法を工夫し、青森県の文学活動の環境整備につなげていくことが課題である。

近代文学館 企画展開催(収蔵資料展)

【事業目的及び概要】

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 「北畠八穂生誕 110 年」

- 期間：4/27(土)～6/9(日)
- 場所：近代文学館企画展示室
- 内容：北畠八穂(1903－1982 青森市)は、病によって身体を奪われながらも、終生ふるさと青森を愛し続け、詩情あふれる個性的な作品を書き続けた。1971(昭和 46)年、68 歳のとき『鬼を飼うゴロ』で野間児童文芸賞、サンケイ児童出版文化賞大賞を受賞した。生誕 110 年にあたり、近代文学館に所蔵されている資料を中心に、八穂の生涯と文学活動およびふるさと青森への思いを紹介した。

○ 展示資料数：235 点

○ 来場者数：2,265 名

(2) 「大町桂月が描いた青森」

- 期間：10/12(土)～11/24(日)
- 場所：近代文学館企画展示室
- 内容：大町桂月(1869－1925 高知出身)は、雑誌「帝国文学」の編集委員を務め、美文、韻文、評論、随筆と幅広く活躍した。1908 年、初めて十和田湖を訪れ、その美しさを紀行文「奥羽一周記」によっていち早く全国に紹介し、蔦温泉で息を引き取った。青森の自然を愛した大町桂月の足跡をたどり、作品に描かれた青森の姿を今と重ね合わせて紹介した。

○ 展示資料数：176 点

○ 来場者数：2,379 名

(3) 新収蔵資料展「高木恭造の世界」

○期間：1/18(土)～3/16(日)

○場所：近代文学館企画展示室

○内容：高木恭造(1903-1987 青森市)は、方言詩集『まるめろ』と本人による情感あふれる朗読で知られているが、その文学活動は、詩、小説、随筆、評論、戯曲と多岐にわたっている。生誕110年にあたり、高木恭造の文学活動の全体像とその背景を、近年新しく当館蔵となった高木恭造ゆかりの資料とともに紹介した。

○展示資料数：213点

○来場者数：2,484名

[成果と課題]

「北畠八穂生誕110年」では、北畠八穂という作家を知らなかった方々に、その生涯と作品を知らせることができた。また、この展覧会をきっかけに、北畠八穂ゆかりの人々から様々な情報が寄せられ、これまで不明であった点が多々明らかとなった。また、滞っていた資料集の作成が進展することとなった。

「大町桂月が描いた青森」では、主要な著作を展示して大町桂月の文学者としての活動を概観するとともに、青森県を舞台とした紀行文と、それにまつわる書画や原稿を紹介することができた。紀行文に登場する名所や県内に存在する桂月碑43基の写真をパネルに取り入れることで、大町桂月が愛した青森の自然の魅力を様々な年齢層に伝えることができた。

新収蔵資料展「高木恭造の世界」では、高木恭造の生涯をたどり、方言詩人以外の側面にも光をあてることで、高木恭造の文学世界が方言詩にとどまらない奥行きを持つものであることを紹介することができた。また、高校に協力を要請し、高木作品の英訳を高校生が朗読する朗読会を開催したことで、若い世代にも少なからず興味を持ってもらうことができた。

これらの企画展開催を機に、調査研究した事項や寄贈を受けた資料を保存・継承するとともに、効果的に活用し、県民の青森県の文学に関する理解を一層深めることが課題である。